

戦間期日本の銀行間ネットワークと金融システム

岡崎哲二

東京大学 大学院経済学研究科 教授

澤田充

名古屋学院大学 経済学部 経済学科 講師

Abstract

本論文では、1920年代の日本における銀行間ネットワークを役員兼任データに基づいて同定するとともに、その意味を分析した。普通銀行の約60%が、少なくとも他の1つの普通銀行と役員兼任を通じたネットワーク関係を持っていたことが明らかになった。銀行相互のネットワーク関係は、金融恐慌時等の流動性供給を通じて、銀行の倒産確率を引き下げる効果を持つと考えられ、実際にネットワーク関係を持つ銀行の倒産確率が低かったことが確認された。また、当時、活発に行われた銀行合併において、ネットワーク関係を持つ銀行が合併相手として選ばれる傾向があったことが明らかになった。